

クリスティン（元カトリック教徒 アメリカ合 国）（パ ト2 /2）

:

明:

チャットル ムでイスラ ムを 介された 、クリスティンは宗教研究のために でクルア ンを んでいる を流している自分に づく。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: クリスティン

日 06 Dec 2009

集日 12 Dec 2009

チャットル ムでイスラ ムを 介された 、クリスティンは宗教研究のために でクルア ンを んでいる 、 を流している自分に づく。

この 、私は自分の探求を始めた と同じ位にただ混乱し、イライラしていました。私は 神に自分の腕を放り上げ、“今度は何ですか？”と叫んでいるような 分でした。私は ユダヤ教徒でもキリスト教徒でもなく、ただ唯一神を信じる人 でした。私は 的な宗教 を全て放 しようと考えました。私が求めていたのは真 で、それがどの神 な 物によってもたらされたのかは にしていませんでした。ただ真 だけが欲しかったのです。ある日 私はインタ ネットの 事を んでいて休憩しようとしたところ、ふとチャットル ムを つけました。私はそこに自分が 味のあった“宗教”という 目があるのに づき、クリックしてみました。私はそこに“ムスリム”という部屋を つけました。入るべきだろうか？ 私はテロリストが私のメ ルアドレスを手に入れ、コンピュ タ ウイルスをパソコンに送 って来たり、またはそれ以上のことをされたりしないように いました。そして い服に 大きな 髭の大男がドアから入って来て、私をさらっていく光景が に思い浮かびました （これで私がどのくらいイスラ ムについて知っていたかお分かりでしょう…ゼロです ！）。それから私は、これはただの な じゃないかと思いました。そして 心してチャッ

トルムに入ってみると、そこに参加している人々が自分が想像していたほど怖くないことに付きました。事、大抵の人がお互いに旧知の仲であるかのように“兄弟”“妹”と呼び合っていました。私は皆に挨拶し、そして私が何も知らないイスラムの基本について教えて欲しいと言いました。彼らが明してくれたことは味深く、しかも私が既に信じていたこと一致しました。ある人は私に本を送ってくれると言ってくれたので、私はそれをおいしました。（ところで私はウイルスも受けなければ、私の夫を除いては男性がドアの前に来て、私を去るといふようなこともありませんでした。夫は私のことを理矢理行て行ったわけではありませんが！）チャットからログオフすると私は直接に行き、ユダヤ教のと同じようにイスラムにする全ての本を借りました。私はみ、もっと学びたかったのです。以前私は多数の本を持ちても、く流しむだけでした。しかし今回は私にとっての分岐点だったのです...最初の何かはイスラムの基本を明してあり、またの何かは学的で、巨大な美しいモスクやスカフをまとった女性の写真がされていました。そして幸にも、私はクルアンを借りて来ていました...私はそれを当にいて、み始めました。まずその言が私にを与えました。そして他の“神な”物をんだとはなり、人ではなく何らかの威あるものが私にしかけているようなように感じました。私がんだー（不幸にもどれだったか分からないのですが）は、神がこの世で私たちにするよう望んでいることと、かれの命令に沿ってどのように生きるかについてかかれてありました。そこには神が最も大で慈悲深く、よくお赦しになられる方であるとかかれていました。最も重要なのは、私たちがいつか神の御にるということです。私のが一粒一粒、んでいるペジを打つ音がこえました。の真ん中で私は泣いていました。なぜなら私は全ての探求と疑の、ついに自分の探していたもの-イスラムをつけたからです。私は山の宗教文学をんでいたのでクルアンの独特さは知っていましたし、どれもこれほど明であったり、このような分を与えたりするものはありませんでした。今私は神の英知を出しました...私はイスラムをする前にユダヤ教とキリスト教を探究させられ、そうすることでそれら全てをイスラムと比べ、それらが虚であることをづかせられたのです。

このから、私はイスラムを研究しけています。私はユダヤ教やキリスト教でそうしたようにそこに矛盾を探そうとしましたが、そのようなものは何もつけることが出来ま

せんでした。私はクルアーンを 底的に べ、どんな矛盾でも探しましたが、今日に至るまで1つたりとも矛盾を つけることが出来てはいません！ 私がクルアーンにおいて に入ったの素晴らしい点は、 者に を投げかけて挑 しているところです。クルアーンは、もしそれが神からのものでなければ、あなた方はその中に多くの矛盾を つけることでしょう、と言っているのです。イスラームには何の矛盾もないどころか、それは私の思い付くあらゆる 意味のある答えを提供してくれました。

それから3ヶ月、私はイスラームが答えであると 意し、信仰告白をすることにより正式に改宗しました。しかしながら私の近くにはムスリムもモスクもなかったのです(最寄のモスクさえ家から6 ほどかかるところにありました)、信仰告白をスピカフォン越しにペンシルバニアのイマムについて言わなければなりませんでした。私は自分の改宗する 意をして 悔したことはありませんでした。私の近くにムスリムは住んでいなかったのです、私は自分自身で んで学ばなければなりませんでしたが、真 を学んでいたのですして疲れることはありませんでした。イスラームを受け入れることは私の魂と心、そして世界さえ目めさせるもののようにでした。

それは 力の い人に例えられるかもしれません。彼らは授 についていくのに苦し、集中出来ず、その障害のために常に に遭います。しかしもしあなたが彼らに眼 をあげさえすれば、全ては明らかになるのです。これが私のイスラーム です。そしてそれは、まるで初めて本当に えるようになるための眼 を手にしたようなものだったのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/69>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。